

3 多文化共生社会

～行政レベル、市民レベルともに世界に開かれたまち

<基本計画の目標>

国籍や文化の違いを認め合い、外国籍市民とともに暮らしやすい地域づくりを進めます。
市民・市民団体の国際交流・協力活動を支援します。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H20	H21	H22	H23	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	35.4 %	37.7 %	60.4 %	61.8 %	53.2 %	↓

<C 目標達成に向けた23年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

自己評価	
<p>【経営企画部】</p> <p>市内で活動している国際交流・協力団体と連携して「国際交流フェスティバル」を開催し、市と団体及び団体相互の情報交換のほか、各団体の活動状況を紹介するなど周知を図りました。 また、高校生を対象とした国際理解講座では、ワークショップを通して、国際支援の現状を学び、能動的な啓発を図りました。</p>	○
<p>外国籍市民の意思疎通の支援を目的とした通訳ボランティアは、派遣の実績はありませんでしたが、問い合わせなどが2件ありました。また、登録者は、目標値に達しなかったものの、6人(従来1名程度)の登録者があり、外国語を含むホームページやチラシ作成が奏功したといえます。</p>	○

前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

<D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

【経営企画部】

<p>通訳ボランティアが行政手続きの窓口対応などを対象に3人派遣されたデータがあるが、全体量としても少なく、継続的にこの事業の意義を問うていくことが必要。</p>	⇒	<p>外国籍市民の意識調査については、日頃から市内の外国籍市民と交流のある国際協力団体の協力を仰ぎ、意見聴取を行いました。</p>
<p>外国籍市民の意識調査を行うことがまだできていない。外国籍市民の要望に応える対策を講じる必要がある。前回の外国籍市民意識調査から約20年経っている。再調査も有効と思われる。</p>		<p>通訳ボランティアは、行政手続きや窓口相談などで、外国籍市民の意思疎通の支援として登録者の確保を進めています。今年度は、当該制度について、ホームページを利用して周知を図りました。また、登録者には文書の翻訳についても協力をいただきました。 なお、現在当該事項を目標指標としていますが、次回策定時にはより適切な指標を検討します。</p>
<p>通訳ボランティアを、小学校英語の特別非常勤講師(教員免許状を持たなくても良い)として、活躍の場を広げられないか。</p>		
<p>鎌倉には在住の外国人の方がいる一方、多数の観光客も来ている。多文化共生では、外国籍市民の方のみならず、観光で訪れた方々に提供できる災害マップや公共施設情報などを、外国籍市民や通訳ボランティアの方たちと共に作成して頂きたい。</p>		

<E 23年度未達成事業の課題・問題点など>

【経営企画部】

<p>「活動拠点の整備」については、連絡会としての取組みが未解決になっています。外国籍市民への意見聴取を行い、防災に関する関心が高いことがわかりましたが、施策での対応に至っていません。</p>
<p>※未達成の理由<支障となった理由> 国際交流・協力団体との間で十分な調整、情報交換ができなかったことによるものです。 関連各課への働きかけができなかったことによるものです。</p>

<F 今後の展開(取組方針)>

【経営企画部】

<p>国際交流・協力団体との協力関係の維持や情報交換を図る場として、「国際交流フェスティバル」の開催と合わせて、団体相互のネットワークの強化や国際交流・協力活動の支援を図るための活動の拠点作りを目指します。 国際交流・協力団体などの情報交換などによる実態の把握に努め、通訳ボランティアの有効活用など支援施策の充実に取り組んでいきます。 外国籍市民から聴取した意見を基に、外国籍市民が暮らしやすい地域づくりを推進していきます。</p>
<p>都市交流については、既存の制度を見直し、より多くの市民や市民団体の交流を推進していきます。 多文化共生社会に対する理解を促すため、青少年を対象とした国際交流事業を推進していきます。</p>

<G 実績指標：事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H20	H21	H22	H23	H22年度 目標値	H27年度 目標値
通訳ボランティアの派遣回数(+)	外国語通訳ボランティアの年間派遣回数	4 件	0 件	0 件	2 件	0 件	5 件	6 件
通訳ボランティアの登録者数(+)	外国語通訳ボランティアの登録者数の合計	138 人	149 人	149 人	117 人	126 人	140 人	143 人
多文化共生社会の浸透率(+)	日常的に外国人との交流がある市民の割合	20.1 %	17.6 %	17.9 %	18.2 %	19.6 %	22 %	24 %

<H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	3,366千円	2,235千円	773千円	1,361千円				
	(国・県)	0千円	0千円	0千円	0千円				
	(負担金等)	0千円	0千円	0千円	0千円				
	(一般財源)	3,366千円	2,235千円	773千円	1,361千円				
	人員配置数	1.0人	1.2人	1.0人	1.0人				
	人件費 (B)	9,626千円	11,511千円	8,816千円	8,760千円				
	総事業費(A+B)	12,992千円	13,746千円	9,589千円	10,121千円				
	対前年比		105.8%	69.8%	105.5%				

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・外国籍市民の意識調査について、国際協力団体の協力により意見聴取を行った。(ただし結果が示されていない。)
- ・外国籍住民との触れ合いの場が大切であり、国際交流フェスティバルやワークショップなどの開催を評価する。更なる工夫をお願いする。
- ・青少年を対象とする国際交流事業の推進に期待する。



課題・提言

- ・フェスティバル等の実施は民間主導へと移行させていくべきである。
- ・通訳ボランティアは、派遣の実績はなく問い合わせ2件のみであった。通訳ボランティア事業の積極的な活用の方向が見えてこず、意義と内容の見直しを図るべきである。県では通訳ボランティアが不足しているため最近も募集があった。県との協働もお願いする。
- ・多文化に触れる点で市内青少年と外国籍市民の交流などがあればと思う。その際に通訳ボランティアに参加してもらおうと交流が深まる。
- ・外国籍住民にとって暮らしやすいまちとは具体的にどう言うものか。意識調査で意見聴取を行ったとのことであるが、防災以外にも関心の高い課題があると思われる。意識調査の結果がどこに反映されるのか明確になっておらず、平成24年度には意識調査の結果、どの様な問題が発見され、どの様な対策を実施したかが重要となる。
- ・世界遺産登録をめざすに値する、自文化も他文化も認めあう多文化共生のまちであって頂きたい。

この分野のめざすべきまちの姿に向けた平成23年度の取組は、普通であった。